

第6回豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会

日 時	平成29年5月23日（火） 午後6時30分から午後8時25分 まで
場 所	豊明市役所東館1階 会議室4、5
出 席 者	小川雄二委員長、森岡一彦副委員長、三谷聖也委員、伊藤克仁委員、 岸洋行委員、佐藤敬子委員、屋良桂子委員、丸尾敬吾委員、高山善樹 委員、山田勇二委員
事 務 局	市長、副市長、教育長、教育部長、学校支援室長 行政経営部長、とよあけ創生推進室
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有（13名）
議 題	1 統廃合の反対を求める署名について 2 Q Uアンケートの結果について 3 教員アンケート及びヒアリング結果について 4 答申に向けての方向性について

議 事 録（要旨）

新規委員委嘱及び紹介

I 委員長あいさつ

ちょうど一年前、昨年5月25日に第1回統合検討委員会を開催し、2か月もしくは3か月に一回のペースで会議を進めてまいりました。前回2月21日から3か月经ちまして、今日が6回目の委員会です。10名の委員のうち5名が本日交代され、新しい委員の皆様は、訳がわからないかもしれませんが、委員会全体としては後戻りすることなく、前に進めていきたいと思っております。新任の委員の皆様はわからないことがありましたら、おっしゃっていただきまして、議論の積み上げにご協力をいただければと思っております。私は舵取りを任されておりますが、引続き委員を務めていただく皆様、そして新しい委員の皆様のご協力が進めさせていただきたいと思っております。どうぞ今日もよろしくお願いいたします。

II 市長あいさつ

前回からの3か月ほどの間、学校の先生方へのアンケートを中心に進めてきました。また、前回の委員会の直後に、唐竹小学校の保護者の皆様を中心とした色々な方からの署名をいただきました。それから唐竹小学校のPTAの皆様からお話をいただいたり、意見交換をさせていただいたりしております。また、唐竹小学校のPTAの皆様からの要望もありましたので、佐藤校長のご配慮により、市

幹部や教育委員が唐竹小学校の普段のクラスの雰囲気を現場で学ばせていただく機会がありました。

この検討会も6回目を数えまして、その間に双峰小学校、唐竹小学校の保護者の皆様との意見交換をさせていただいております。今1年を振り返って思うのは、この豊明市において子どもたちの教育はどうあるべきかを、これだけ多くの大人が真剣に考えていることがわかったことだと思います。こういった熱が我々にも影響を及ぼしています。現在教育委員会と私で、不登校児の受入場所の整備について、最終的な審議の準備を進めております。普通は3月議会で行うものでありますが、それよりも早い意思決定は、少しでも子どもたちの教育を良くしようという思いを共有できているからだと思います。最終的に検討会を通して、子どもたちにとって、より良い学校環境を実現していく形になっていけばと思います。

副委員長の選任

III 議題

1 統廃合の反対を求める署名について

(事務局説明)

小川委員長 署名の現物がこちらにあります。前回の検討委員会後、市長、教育長、私で代表の方から受け取り、市長を中心にご説明いただきました。その後3月11日に市長部局が対応しましたが、書面での回答を求める要望書も出ておりますので、今後も対応をしていただけるかと思っております。

先ほど、市長及び事務局からも説明がありましたが、単に統合に反対ということではなく、子どものことを真剣に考えての署名だと思いますので、この3,514筆という数を委員会としても受け止め、今後の答申に反映させていただきたいと思っております。以上署名に関してでございます。

2 Q Uアンケートの結果について

小川委員長 前回の委員会で丸尾委員から要望がありました。学校名を特定して公開することは難しいので、小規模、中規模という形で公開をしていただきました。Q Uアンケートの説明及び、結果の説明をお願いいたします。

(事務局説明)

小川委員長 Q Uアンケートの結果を見て、委員の皆様、何かご意見ご質問はございますでしょうか。

特に6年生で全国平均に比べ非常に高い数値になっていますが、小規模、中規模間では大きな差は見られないように思いまし

た。

3 教員アンケート及びヒアリングの結果について

(事務局説明)

小川委員長 小学校教育、特に双峰小学校と唐竹小学校、また豊明市全体の教育を熟知している先生方に対するアンケートやヒアリングが実際に情報源として重要ではないかということで、特別に行いました。大変参考になる意見があると思いますので、何らかの形で答申に反映できればと考えています。アンケートの結果について、委員の皆様からご意見ご質問ございますでしょうか。

委 員 小学校教員ヒアリングについて、統合検討委員会で報告するとの前提を伝えた上で行っているのか、一般的なアンケートとして行っているのか、どちらでしょうか。

事 務 局 ヒアリングシートをお配りする時に、より良い環境を目指すために現場の先生方の意見を聞かせていただき、個人名は出さないが書かれた意見をまとめ、委員会で報告する予定であるという前提でアンケートを行っております。

委 員 教員アンケート結果の表の中で、「◎」「○」の割合が出されていますが、全て足しても100%になりません。表の見方を教えて下さい。

事 務 局 一番効果がある学校規模に「◎」、次に効果がある学校規模に「○」という2つ選択する設問にさせていただきます。

ただし、「学校規模は関係ない」という選択肢の他にも、よくわからないから空欄のままという回答もありましたので、100%にはなりません。そういった理由は自由意見欄に記載させていただきます。

小川委員長 大変貴重な結果かと思っておりますので、答申を検討する上で大いに参考にさせていただきたいと思っております。

4 答申に向けての方向性について

小川委員長 委員会として答申の方向性をそろそろ固める時期にきておりますので、その方向性を議論させていただければと思います。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

小川委員長 事務局より説明のありました中で、過去5回の委員会の議論についてご質問等がありますでしょうか。

答申の組立について、事務局より資料4の最終ページのとおり

三本の柱を提示していただいておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

それではよろしければ、それぞれについて皆様からの意見を頂戴したいと思います。

委員 本委員会は豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会とお聞きしていますが、答申については「豊明市の」となっております。豊明市全体の教育環境の提供についてを、双峰小学校及び唐竹小学校統合委員会の答申にすることは筋が通るのか、疑問に感じます。「豊明市（双峰小学校及び唐竹小学校学区）」と限定する必要がある気がします。そうでなければ委員会の目的と整合性がないと思います。

事務局 おっしゃるとおりだと思います。案を作る際はその様な限定した形でやらせていただきます。今回の議論は現在在校生と、これから双峰小学校と唐竹小学校に入る子どもたちのために、どのような教育環境ができるのかという議論にさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

小川委員長 高山委員がおっしゃるとおり、委員会の性格上、市全体ではなく、両学区の子どもたちにどの様な教育環境を提供すべきか、という内容になると思います。「将来を担う」は残したまま、文言を修正させていただきます。

では、どのような教育環境を提供すべきかということについて、どんな内容を記載したらよろしいでしょうか。

過去の委員会の議論の中では、多様な人間関係であったり、切磋琢磨できるような関係であったり、その一方で一クラスの人数はあまり多くならないようにといった意見、議論がなされてきましたので、そのような意見を委員会として記載すべきだと思いますが、それ以外にいかがでしょうか。

委員 唐竹小の校長として感じていることを含めてお話しします。委員長のお言葉の中にもありました、唐竹小の良さでもある「一人ひとりの子どもたちを大切にしたい個に応じた指導ができていくこと」は外せないところだと思います。それぞれの力、良さを見極め、発揮させることで能力を伸ばしていくような指導ができていくと思います。大勢の中で埋もれることなく、自分の力を発揮できる機会を与えられるということで、大人になった時の社会の中で自信をもって自分を発揮していくことのできる基盤となる自尊心

情の伸長にも繋がると思います。競争の中で生まれるものではなく、大切にされて自分の力を思い切って発揮した時に培われるものだと思うので、そういった部分も含めていただければありがたいです。

小川委員長 「切磋琢磨」は除いて、一人ひとりが大切にされ、一人ひとりが力を発揮できるということを記載するといいいという佐藤委員の意見でございました。

ただ、過去の議論において、「切磋琢磨」が重要という議論も出ています。現在の唐竹小学校の良さは統合するにせよしないにせよ大事にさせていただかないといけないと思いますが、切磋琢磨できる環境がないという意見も出ておりましたので、そこについては望ましい環境と言ったときには、そういった内容は入ると思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

委員 佐藤委員から自尊感情というテーマが出ましたが、すごく大切だと思っております。大学のゼミで不登校に関する研究をしたときに、自尊感情が低いことが、不登校児及び不登校予備軍のお子さんに共通して見られる特徴だということがわかってきました。自尊感情を育てる教育が不登校予防にとっても極めて大切ということが、カウンセリングの研究の側面からも見えてきておりますので、将来を担う子どもたちにどういった環境がよいのかということに関して、補足をさせていただきました。

小川委員長 自尊感情と切磋琢磨というのは両立できるのか、相対する概念なのか教えていただけますか。

委員 相対する概念ではないと思います。多様な個性や価値観を認める関係の中で切磋琢磨するというのが理想的だと思います。一元的な価値観の中での切磋琢磨だと、順位付けがされてしまいます。多様な価値観を尊重しつつ、自尊感情を認める個々の両立が極めて大切だと思います。

小川委員長 どのような教育環境を提供すべきかについて意見を頂戴しておりますが、入れてほしい文言などはございますか。

委員 統合するかしらないかということはとても重要だと思いますが、メリットデメリットがあると思います。色々な方針に基づき、色々な方からの意見を合わせて、慎重に検討し、整理しながら、方向性を持って行くことがいいと思います。経費の問題など、色々なことが山積しています。皆さんの意見を聞きながら、色々な意

見を持っていきたいと思えます。

小川委員長 両校の子どもたちにとって理想的な教育環境がどういうものなのか、最初に目指す教育の姿を確立した上で、現状の課題を明らかにし、どのように解決したら、望ましい学校ができるのか、そういう答申の組立にさせていただくのが良いと考え、三本柱を立てさせていただいております。

委員 教育に携わるものでありながら、どのような教育環境を学校の子どもたちに提供すべきかと言われたときに、なかなか明確な答えが出てこないと思っています。考えてみたのですが、どのような教育環境を提供すべきかと強調すればするほど、足りないことを強調していることにはなるのではないのでしょうか。今までの話し合いの中で、良いところもたくさん出ています。ですから、教育環境を提供すべきという言葉そのものを見ていくと、足りないものが強調されてしまい、今できていることがどこかへ行ってしまふ恐れがあると、感じています。文言を変えるのはなかなか難しいかもしれませんが、その中には、今の状況でこういう良いところがあるということも含めて入れていかないといけないのではないかという気がします。

小川委員長 おっしゃるとおりです。今もずいぶんレベルが高いと思えますし、QUアンケート等からわかるように高い水準で教育が展開されていることから考えますと、現状を上回るものではなく、小規模校の優れた部分を教育環境として引き続き提供すべきものとして残さなければならないと思います。ただし、課題といった部分につきましては、小規模校の課題が多少出てくると思いますので、それはそれで書いていくべきであろうと、そして小規模校で実現できない中規模校のメリットを望ましい環境として記載していくということかと思えます。全体としては、小規模の2つの学校をもし統合するとすれば、小規模校の良さを確実に受け継ぎ、統合すれば中規模校になるので、よりよい中規模校としていくような課題を明らかにし、それに伴う予算措置、人的配置、施設の改善などを加え、子どもたちや保護者にとって納得のできるような教育環境の学校にするということ、もし統合という方向での答申をするならば、そのような内容になると岸委員の話聞きながら思いました。

委員 小規模校のメリットを生かして、ということには賛成ですが、

「小規模校のメリット」と断定してしまうと、それぞれの個性が失われてしまうような感じもしますので、これまでの両校の先生方の蓄積やノウハウを失うことなく、というところが重要になってくるかと思います。

小川委員長 そのとおりだと思います。先生方にアンケート、ヒアリングをしていただいて、良いところを書いていただいておりますので、それはそのまま望ましい教育環境といったところに書いていただく必要があります、もし統合するとすれば、それを受け継ぐことを確実に実現していかないと、子どもたちに申し訳ないことになってしまいます。

委員 小規模校を生かした中規模校という話が出ましたが、アンケートの結果をしてみると、「小規模校の方が良い」や、「中規模校の方が良い」という意見はあるにはありますが、どちらかというところ、必ずこの方が良いというまでの説得力がある割合になっていない気がします。そうしますと、この答申に規模の問題を持ち出すことは、個人的には意味がないような気がします。「規模」というものを一つの物差しにして、それぞれアンケートを取っていますが、その結果、どの規模が良いという明確な結論が、私が見た限り出ていないと思います。イメージ作成について毎委員会と同じような意見が出ていたと思います。つまり、具体的なイメージが出ていないと、昨年度の委員さんは感じていたのではないのでしょうか。今年度は規模の論点ではなく、具体的なイメージを作る必要があると思います。「より良い」ではなく、「素晴らしい学校」とはどのようなものかを皆さんで考えなければなりません。国は少子化に伴い教員削減をうたっていますが、自治体が決められる範囲ではないので、国としての方針とは別に、豊明市独自の教育方針を高い志で考える必要があります。外国人向け日本語教室、トイレなどの設備、一クラスあたりの人数などの改善策が出てくると思います。毎回同じ意見が出てくるということは子どもの意見を聞いていないような気がします。子どもの意見を吸い上げないと、地域の理解を得られないと思います。

小川委員長 子どもの意見を聞くことに関しましては、伊藤委員の前任である浅野委員から、適切でないところをご指摘をいただきまして、子どもの意見やアンケートは実施しないと委員会で決めた経緯があります。教員減があるのではないかという意見ですが、もし統合し

た場合の教員配置や予算配置について既に議論済みではありませんが、新しい委員がおりますので、事務局から補足していただけるでしょうか。

(事務局説明)

市長 現在、愛知県教育委員会から正規の学校の先生が派遣されておりますが、1、2年生は35人学級、3から6年生までが40人学級です。豊明市ではそれぞれの学校を一定程度習熟度別学習や少人数学級を実現できるように、あるいはクラスの授業についていけないだとか、学校で心配な子どもたちに重点的に教育ができるような形で、補助教員を1人ずつ充てています。双峰小学校と唐竹小学校を統合した場合、予算的に補助教員を6人充てられるような状況を過去の委員会で提案させていただいています。今回のアンケートの自由記述において、一クラスの児童の数が一定程度以下だと非常に教育しやすいという意見があります。現在両校において一学年のクラス数が少ない及びクラスの人数が少ない状態で運営されており、きめ細やかなクラス運営ができています。唐竹小学校を重点的に視察に行かせていただいたのも、そこを確認するためであり、その部分はメリットとして大きいと実感しました。

教育委員会と市長部局で、そういったことが可能であるか議論させていただきました。予算的には、3から6年生で35人学級は実現可能です。市費のフルタイムの教員を充てることにより、35人学級を実現できることは確認できています。学校長の判断によって柔軟に対応できる補助教員がいいのか、一クラス35人学級を全学年で実現したほうがいいのか、我々だけで判断ができませんでしたが、学校支援室長から35人学級の方が運営しやすいとのアドバイスを受けました。

教育長 第2回委員会で、統合した場合に今のクラスがどのように編成されるかとの議論になりました。40人学級と35人学級でクラス数及びクラス人数が変わるため、クラス人数が少なければ先生の負担は減りますが、校務分掌などについては補助教員では請け負えないため正教員の負担が減らないという議論も以前にありました。教員にも余裕がないといけない、多様な関係を持たせたい、一人ひとりに目が届くような教育環境も必要、通学距離が伸びた場合でも安全に通学できる環境など、これらのことを答申いただ

きますと、我々も考えがまとまると思います。

学校支援室長 私は一番大きな学校と一番小さな学校を経験しています。高山委員がおっしゃったように、どういう教育を目指すべきか考えるならば、様々な学習面や生活面において規模は関係ないと考えたと、細かな教育ができるということが一番求められている現状でありますので、35人学級というのが、大きな意味があると市長にお話しした経緯があります。

(事務局追加資料の説明)

小川委員長 市長部局としては、3年生以上についても、今の双峰小、唐竹小のクラス人数が少ないというメリットを維持できるように、35人学級ができる用意があると受け止めてよろしいでしょうか。

市長 山田委員がご指摘されたとおり、経費の問題も考えなければなりません。当初から申し上げているとおり、この2校はモデル的な学校になって欲しいと思っています。両校の子どもたちにとっても良いし、豊明市内の小学生、あるいは未来の小学生にとってもプラスに働くと思います。そういったモデル校とするのであれば、検討した結果、十分予算的には問題ない範囲であり、我々としてはそうあるべきだということではなく、可能だということろまで確認しております。

小川委員長 予算的には可能で、統合するのであれば、「モデル校」として進めていくということですね。

委員 追加資料の表について、数に間違いがあります。

事務局 もう一度確認し、正しいものを差し替えさせていただきます。今回は参考としてご覧ください。

小川委員長 趣旨としてはお分かりいただけましたでしょうか。3年生以上についてもモデル的に35人学級という選択肢もあるということで、それがいいかどうかは校長などの判断にはなりますが、市長部局としては用意があるということを確認いたしました。そういう方向性がないままの答申もある意味無責任ですので、仮にそういう答申をする時にも、現状の両校のきめ細かな教育を維持できるのではないかと、あるいは維持していただきたいという内容を加えることができると感じました。

委員 一つ懸念があるのが、小学校で指導を手厚くすればするほど、中学校とのギャップが生じてしまうのではないかとということです。そこで大きな段差ができてしまうと、そこでつまづいてしまい不

登校などのきっかけになってしまうので、段差をできるだけスロープのような形にすることもプラスアルファで盛り込んでいけると、なお良いと思います。

小川委員長 「スロープ」について、具体的に専門的な立場から教えていただけますか。

委員 高学年の児童に対し、中学校とはどういった場所なのか具体的にイメージを持ってもらうために、先乗りして交流を始めたり、6年生に不安・心配などを聞き、それを中学1年生が答えるというやりとりを行うという取り組みがあります。

小川委員長 ぜひ答申の中にそういった内容を盛り込みたいと思います。具体的な文言については、三谷委員にご相談をさせていただければと思います。

委員 第1回の委員会から35人学級が可能か聞いていましたが、できないとずっと聞いていましたので、それが可能だということに驚いています。追加資料を見ますと、35人学級になれば双峰小学校はほぼこれから2クラスが維持され、唐竹小学校はそのまま1クラスです。豊明市内には大規模校が1校あるので、小規模校が1校くらいあっても問題ないという考えもありますが、それが可能かどうかで、統合すべきかしないべきかということも変わってくる気がしないでもないです。それが可能であれば、仮に統合したら全て3クラスになるでしょう。唐竹小学校の保護者は今の環境に満足してしまっていて、先生方のきめ細かい教育を受けている実感を、多くの保護者が持っていると思うのですが、統合すると人数が増えることが恐れていることの1つですが、統合して、3クラスで、30人弱ぐらいの教育が受けられるのであれば、話も違うのかなと思います。そこを前校長の近藤先生も強く押されていたと思います。これを答申として、統合するなら35人学級にしてくださいという方向付けをできると思いますし、どこの場でどう決めるかということもあります。答申の組立て、どのような教育を提供すべきか、今の課題が何か、溝を埋めていくところなんです。溝の埋め方で、「統合する」「今を維持する」が変わると思いますが、そのあたりはどの様に方向付けしていくのでしょうか。

小川委員長 これまでの議論からいきますと、双峰・唐竹の一クラスあたりの人数が少ないことが教育の成果を上げてきた、それは確実に守

ることが35人学級ということですし、予算的な目安もついているというお答えをいただいています。一方で、ある程度人数が多い方が、教育の効果も上がるという部分もあるので、今までの良さを守りつつ、さらにより良い教育にしていくための答申を出すということが、本委員会の目的であり、両学区の子どもたちにより良い教育環境を提供するために「統合」ということになるのかもしれませんが、それはダメなんだということであれば、今回は見送ってくださいということになるかもしれません。現状からいきますと、少人数のメリットを維持できる目安ができていますので、これに中規模のメリットを付け加えたようなより良い教育のあり方の見通しができてきたと感じております。

今回は答申の組立まで踏み入っておりますので、かなり生々しい議論になっております。ひとまず柱建てに基づいて意見交換をさせていただき、また本日及び過去の意見も踏まえた上で、柱建てを修正させていただきましたけれど、それに基づいた答申の案を、私と事務局で練らせていただき、この場でも出させていただき運びとさせていただいてよろしいでしょうか。次回の委員会で答申原案を提示させていただいて、また意見を頂戴した上で、答申を出させていただきたいと思っております。委員長として、統合がされた場合それでおしまいと思わず、その後本当に統合して良かったのか、あるいは教育が高まっているのかという検証もしていくことが、子どもたちに対する責任だと思っております。そういった内容も、柱建て3本プラス統合した場合には検証する仕組みを作っていくということも入れたいと思っております。そのようなことも含めた答申原案を次回出させていただきたいと思っておりますので、積極的にご意見いただき、修正を加えていただくことをお願いいたします。そんな方向性を出させていただいて、今回は終了させていただきます。

(次回開催についての連絡)